

## 【要約版】

令和3年度 第1回高島市図書館協議会

開催日時：令和3年5月18日（火）15時30分～17時15分

開催会場：高島市立今津図書館 視聴覚室

出席：平松委員、福原委員、嶋崎委員、山本（富）委員、山本（恵）委員、井上委員、  
桑原委員、桂田委員、山本（永）委員、田川委員、吉川委員、國松委員

事務局：上原教育長、柳森館長、志村主監、原田

欠席：梅村委員

### 1. 教育長あいさつ

学校教育において「自ら考え、判断し、行動する力」を育てることが重要。図書館はそういった人の生涯学習にかかわる貴重な機関だと考えている。

コロナ禍においては、三密を避けるということが言われ続けている。一刻も早くこのような状況が収まり、地域の人たちが関わりながら高島の人たちが育っていく環境を整えたいと思う。これから2年間にわたり、市民にとって良い機関としての図書館が機能できるよう皆さんからのご意見を頂戴したい。

本来なら今期最初の会議なので、委嘱状や任命状を手渡ししなければならないが、コロナ禍ということもあり、机に置かせていただいたことをご了承いただきたい。

### 2. 自己紹介（委員および事務局）

### 3. 役員改選 会長副会長選出。

●図書館協議会の位置づけについての説明後、桂田委員より2名の推薦があり、拍手をもって承認された。

会長：國松完二委員 副会長：平松成美委員

### 4. 会長あいさつ

図書館協議会は、常に利用者の声を運営に活かしていくという法律で定められた役所の中の諮問機関なので、位置づけは非常の重いものになる。図書館というのは、絶対必要で、大事な施設なんだということを市の中核に理解していただけるように、皆さんの意見をまとめていければと思っている。また職員がいろいろなサービスに関わっているが、利用者側からみて、これはおかしいなという意見もしっかり伝えていきたい。

以下、協議事項内容と質疑応答等。( ○=報告内容 ●=委員意見 ⇒回答 )

協議事項 1: 「令和3年度図書館事務分掌および図書館運営方針」について

○職員体制は昨年度同様。正規職員5名。会計年度任用職員24名。

○運営方針は、高島市教育大綱を柱とし、1から6まで挙げている。

6番目の「図書館機能の維持」について、今年度は今津および安曇川図書館の照明のLED化工事に向けた設計業務委託料が予算化されたので、現在発注に向けて準備中。

また昨年度の図書館協議会でご提案いただいた、書庫ツアーや図書館が外に出てアピールするといったことの実現に向けて、取り組んでいきたいと考えている。

●運営方針については、昨年度とほぼ同じことが書かれている。どこに重点があるのかわからない。図書館は、職員のサービスが大事と考える。運営方針の5番目にあげられている専門的な研修にどんどん参加してほしいが、旅費が減額になっている。  
⇒公用車を使うなど、やりくりをして有意義な研修を受けられるようにしたい。

●選書については、管理運営規則にあるように館長の責任。市民に代わって図書館の本を選ぶので、十分配慮して収集にあたっていただきたい。  
⇒選書には一定の基準、選書基準を設けており、それにそって専門の職員が選んでいる。

●運営方針は図書館の基本的な考え方なので、毎年同じようなものになると思う。新型コロナウイルス感染拡大があり、昨年度、図書館事業はほとんどできていないはず。今年度もすごく影響が出てきているのでは？個人的には、「今年は何をする」という部分は出さなくてもいいと思っているが、もしもあげるのであれば、コロナ禍で運営していかなければならないということ、盛り込んだ形にしなければならない。

●館長が口頭で「外に出る、発信を進めていきたい」とおっしゃったが、それは昨年度中、協議会で話し合いをして出てきた意見。それを運営方針に書くべきかは、わからないが、出した意見が次の年に活かされるような方向へもって行っていただきたい。

●第二次高島市総合計画の図書館部分で、人口1人あたり年間14冊貸出を10年間維持するとなっている。このような数値目標を方針に加えてはどうか？

●ブックスタート事業は、昨年度相当影響が出たのでは？今年度はどうなのか？

⇒感染症対策で、読み聞かせができない。(飛沫感染防止の観点から母子との距離を空けなければならないため)ブックスタートの説明文書と絵本を渡すだけになっている。

予算は減らされなかった。今の形で続けるのは、ブックスタート本来の目的にあっていない。コロナ収束を願っている。

●収束には、3年くらいはかかるかもしれない。図書館は老若男女不特定多数が利用する施設であり、今は様子見などところもあるが、これから図書館事業の見直しを言われるかもしれない。事態が長引くと図書館予算にも影響が出てくると思うので、市役所の動向もしっかり把握してほしい。

※今年度の運営方針については、協議会で了承。

## 協議事項2：「令和2年度利用統計、事業報告」について

○26～40Pの説明。(26.27Pは当日差し替え資料を参照)

●28ページの利用人数。朽木はなぜこんなに多いのか？朽木の人口はマキノの30%、高島の25%くらいなのに、利用人数があまりかわらないのには、なにか理由があるのか？あるのなら、他の地域がそれを見習うべきでは？

●令和元年度と2年度のデータは今回ついているが、それ以前、平成の時とか長期的に比較できる資料がほしい。市民の総数は減ってきたので、どの程度変容があるのか？

⇒具体的な数字は、今、申し上げられないが、貸出冊数・人数がコロナ前とだいたい5%減。前年比だと95%。人口の減少は1.数%減。貸出冊数・人数の方がはるかに大きく下がっている。

●合併直前くらいから、利用状況がどのように推移しているかを、まとめて教えてほしい。

⇒資料を整理させていただき、提出したい。

#### その他

●昨年度のコロナによる休館で、その後開館しても利用が減っているという話が出ていたが、特に高島市については、ここ最近、本を買うお金が非常に厳しい状況がずっと続いているので、そういう状況が色々と利用のほうに影響が出始めたのでは？

●高島市は、人口 5 万人前後の自治体では、全国トップクラスのサービスを 20 年くらい維持してきた。そういう図書館をこれからもきちんと守っていけるよう色々しなければならぬ。

●展示について。本を並べているだけではなく POP などの解説をつけたほうがいい。

●高島市子ども読書活動推進協議会で、「読書のキセキ」（読書手帳）について、「子どもが喜んでいる。貼るシールをもらうのが図書館に行く楽しみになった。」との意見がでた。